支えあいのまちづくり協議体（日本橋地域）実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う「支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）」の令和４年度第2回目を、日本橋地域(はまるーむ)で開催しました。

１ 実施日

令和４年８月29日（月）10:00～11:30

２ 出席者

日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター　計８名

３ 内容

・第１層協議体 実施報告

・第２層協議体情報交換会 実施報告

・意見交換：第２層協議体（日本橋地域）の今後の取り組みについて

４ 第１層協議体 実施報告

７月27日（水）に実施された第１層協議体について報告。今回は「中央区内で地域活動を担われている方のネットワーク化」について意見交換を交わし、「顔の見える関係性」として人と人とのつながりを身近な地域で築くことの重要性や活動者がどのような活動をしているのかを情報発信することで活動者間のネットワーク化に結び付くのではないかといった話があったことを報告した。

５ 第２層協議体情報交換会 実施報告

６月22日（水）に実施された第２層協議体情報交換会について報告。主に京橋地域・月島地域でどのような取り組み・話し合いが行われているかを共有し、京橋地域の広報紙「きらきらいふ京橋人」、月島地域の高齢者のICT問題に着目した「スマサポまつり」の実施内容を報告した。

６ 意見交換：第２層協議体（日本橋地域）の今後の取り組みについて

これまでの話し合いの内容をベースに以下の３点について本協議体内での意識統一を図った。

① <u>第２層協議体での“つながり”の定義について</u>

これまで“つながり”という抽象的な言葉を多用してきたが、本協議体で想定する具体的な“つながり”を整理。

▼地域でお会いした際に顔が分かり、挨拶ができる

▼詳細な居住地を把握するには至らなくとも、おおよその居住エリアが分かる

上記の２点が本協議体で『地域住民にできる“つながり”』として定義することになった。

そのため、今後本協議体で“つながり”と表記されるものに関しては上記の２点を指すこととする。

② <u>「ひとり暮らし高齢者」の範囲について</u>

本協議体の対象を「ひとり暮らし高齢者」と一括りにして話し合いを進めてきたが、ひとり暮らし高齢者の中にも「積極的に他者との関わりを持たれる方」、「ひとりの時間や自宅での時間を好まれる方」、「きっかけがあれば他者とのつながりが持てる方、つながりたい方」、「つながりを持ちたいけどつながれない方」、「積

極的孤立を選択される方」などその性質・性格が多岐に渡っていることを共有。そのため、本協議体が主にどの層を対象に「ひとり暮らし高齢者」の“つながりづくり”を進めていくのか確認を行った。
以下、対象を整理するうえで交わした主な意見。

▼「積極的に他者との関わりを持たれる方」は既に“つながり”が築かれているため、本協議体の対象としてはひとまず考えなくても良いのではないか。
▼①で考えた“つながり”の定義に「積極的孤立を選択された方」が該当することは考えづらい。そのため、今回アプローチする対象とは別の方法を考える必要がある。
▼「ひとりが好きな方」や「きっかけがあれば他者とのつながりを持てる方、つながりたい方」は地域に一定数いる。一方でそういった高齢者に地域の社会資源に関する『情報』が届いていない側面がある。
▼コロナ禍を理由に他者との関わりを持つことに慎重になっている方も多い。地域で With コロナに対応できていない高齢者も少なくない印象がある。

上記の意見を踏まえ、本協議体が対象とする「ひとり暮らし高齢者」の範囲を絞り、協議体内で複数の意見があがった「ひとりが好きな方」・「きっかけがあればつながりを持てる方、つながりたい方」を対象とすることで合意した。

③ 今後の取り組みについて
②で「ひとり暮らし高齢者」の範囲を整理した際に複数の委員より「社会資源の把握」「情報発信」の在り方について意見があがったため、今後の本協議体の取り組みについても「社会資源の把握」「情報発信」を軸に話し合いを進めることで合意した。意見交換の内容は以下のとおり。

▼“つながり”ができることで「交流」が生れることに繋がると思う。「はまるーむ」やその他の拠点が“つながり”の結節点、マッチング場所になると良いと思う。
▼フォーマルな社会資源に捉われず、インフォーマルな社会資源についても情報が届けられると良い。具体的には、ラジオ体操からモーニングの流れが出来ているところもあり、そういった場で“つながり”が生まれている。また、そこで生まれた“つながり”が別の場所(スーパーや路地)へ派生していることもあり、とても大切だと感じている。
▼日本橋地域の特徴でもある「商店街」に協力を求めることも考えて良いのではないか。買物等、日常生活を通じた“つながり”になるため、高齢者に異変があった際に諸機関に繋げることも期待できる。
▼「ひとり暮らし高齢者」との“つながり”という点では町会との連携は外せないポイントになる。
▼既存の情報誌に情報を掲載してもらうことはできないか。浜町エリアマネジメントが発行している「BRIDGE」など地域情報を掲載している情報誌と連携できると良いと思う。
▼年齢に関係なく、誰もが手に取ってもらえるポケットサイズのマップがあると配布する際や持ち歩く際に便利だと思う。
▼生活情報を地域住民に教えてもらって社会資源の見える化を図るのも面白いのではないか。
▼社会資源は身近にある。そういったものをマップ等に落とし込んではどうか。

上記の意見を踏まえ、次回以降は「社会資源の見える化」を軸に協議体を実施することを確認した。

6 その他

令和３年度をもって本協議体を退任された補永氏の後任について情報交換を実施。

▼後任として、「医師会立　中央区訪問看護ステーション」の作業療法士について情報提供がある。

▼後任として、「中央浜町一郵便局」の局長について情報提供がある。

その他、後任として推薦したい方が居る際は事務局まで情報提供をして欲しいと依頼した。

7 今後のスケジュール

次回は11月下旬または12月上旬に開催予定。

以上